意見書

環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）交渉への参加について慎重審議するよう求める意見書　（採択）

我が国が貿易立国として発展してきた結果、輸入面では、農産物輸入国となり、価格の安い穀物等が輸入され食糧自給率が著しく低下したものである。

例外を認めないTPPを締結すれば、財政が逼迫する中、農家の収入減を埋め合わせるには、10年間で40兆円が必要とも言われており、日本農業は壊滅のおそれが指摘されている。

食糧自給率の向上や食糧安全保障の観点からも、「多様な農業の共存」を基本理念として堅持し、地域社会や経済・雇用に甚大な影響を与えかねず、持続可能な力強い農業を育てるための対策も講じられていない現在、時期尚早とも言われているTPP交渉への参加は慎重にすべきである。よって次の事項について要望する。

記

1　関税撤廃を原則とするTPP交渉への参加は慎重にすること。

2　経済連携協定（EPA）・自由貿易協定（FTA）等のあらゆる国際協定においては、米や小麦等の重要品目を関税撤廃の対象から除外することを希望する。

請　願

吹上に建設される総合的教育施設に関する請願書　（不採択）

1.吹上地域の市民の声を総合的教育施設建設に生かすこと

2.要　旨

吹上総合的教育施設の設計段階で情報を公開し、現在の吹上図書館、吹上公民館、吹上保健センターの利用者をはじめとした市民および専門家の意見を広く聴く機会を設け、可能な限り設計に取り入れること。

3.理　由

吹上地区総合的教育施設建設に当たり、建設地について二転三転したあげく、このたび市から吹上支所敷地内に図書館、公民館を含んだ形での建設という計画が出され、利用者は不安を抱えています。なぜなら、今年7月にオープンした中央図書館移転に関しても、市民の声を聴く場が設けられず、その結果、館内表示のわかりにくさや照明の暗さが不評を買っているからです。昨年度開かれた懇話会のメンバーにも、図書館や公民館の専門家はいません。

「財政非常事態宣言」で削減した福祉予算の復活を求める請願書　（不採択）

鴻巣市は2008年12月に「財政非常事態宣言」を出し、事業の大幅な見直しを行いました。

チャイルドシート購入補助事業は補助の限度額が8000円から4000円に削減。さらに、在宅重度心身障害者紙おむつ等・重度要介護高齢者紙おむつ等支給事業は支給限度額月5000円から3000円に減額。福祉タクシー・自動車燃料助成事業も助成が半減になりました。「財政非常事態宣言」が終結した今日でも、削った福祉予算は元に戻っていません。

「財政非常事態宣言」が終結している現在、削減した福祉予算を平成23（2011）年度予算で元に戻す事を求めます。

1.「財政非常事態宣言」で削減した福祉予算を復活させること。

（関連記事は3ページをご覧ください）

若い世代の傍聴を

～傍聴によせて～

12月定例会の一般質問を仲間5名とともに傍聴しました。議会を傍聴するのは、これで4回目。厳粛な雰囲気で息をするのも気を遣いました。質疑応答の最中は議員の人たちが真剣に聞きながらメモを取っている人や真剣に聞いている人が大半でしたが、中には隣の議員としゃべっていたり、携帯をいじっている議員もいました。議員自身の自覚や責任感も問われますが、選びっぱなしの市民にも責任があると思います。もっともっと自分たちの選んだ議員がどのように仕事しているか観察するべきだと思います。特に私たちのような20代や30代がどんどん市政に関心を持つことが、このまちを良くしていく第一歩だと感じました。

そのために、毎回中学生や高校生を社会科見学の一環として傍聴してもらうのもいいと思います。

清水朗男さん（人形町在住）

表紙によせて

1月から子ども医療費・ひとり親家庭医療費・重度心身障害者医療費の窓口払いがなくなりました。

本市では今までも中学3年生までの子ども医療費等は無料でしたが、償還払いだったため、窓口払い廃止が議会でも多く取り上げられてきました。

中学3年生までを対象とした入通院の窓口払い廃止は、県内でも先進的取り組みです。

編集後記

「伝える」「伝わる」

▼冬の夜空にひときわ明るく輝く星「シリウス」。地球からの距離は8・6光年で、今地球に届いているのは8年半前の瞬きという計算になります。遠大な時を超えて届いた光に宇宙のロマンを感じます。

▼先日参加した議会だより編集の研修会で「議会報は『伝えたい』ではなく『伝わる』ことが大切」「伝える難しさ」を学びました。

▼4月の市議会議員選挙で議員の顔ぶれも大きく変わるかもしれません。大切なのは市民の声が市に届くかどうかです。こんなに近くにいるのだから市民の声が伝わらないなんてはずはありませんよね。

▼議会だよりの役割は議会のことを市民の皆さんに伝える事です。そのお役に立てるよう努力を重ねてまいります。

（潮田幸子）

編集委員会

委員長　野本恵司
副委員長　潮田幸子
委員　菅藤忠子
〃　斎藤博子
〃　船田敏子
〃　長嶋貞造
〃　秋谷修
〃　金澤孝太郎